

# TOSAIBOTIMES

2008年7月28日発行  
編集者：TOSAIBO TIMES 編集委員会  
編集長：生原 勇  
発行者：上原 泰男  
東京災害ボランティアネットワーク  
〒164-0011 中野区中央 5-41-18  
東京都生協連会館 3階  
tel:03-3380-1614 fax:03-3380-1615  
E-mail:office@tosaibo.net

## 2008年首都圏統一帰宅困難者対応訓練 参加者募集中!!



2008年首都圏統一帰宅困難者対応訓練の準備が本格的になってきました。

1999年から2006年まで毎年東災ボが実施していた帰宅困難者対応訓練。昨年(2007年)からは、「首都圏統一」となり、さらに実行委員会による企画・運営となり、訓練規模、社会的影響力もパワーアップしています。

2008年度は、昨年に引き続きの「首都圏統一」実行委員会による企画・運営で、しかも昨年よりも実行委員会がパワーアップして準備をしています。東災ボ参加団体の皆さんをはじめ、地域団体の皆さん、労働団体の皆さん、社会福祉協議会の皆さん、消費者団体の皆さん、企業・事業所の皆さん、本当に多くの方々関わっての訓練となっています。

この訓練は、東災ボが掲げている「顔の見える関係作り」を実践する訓練でもあります。多くの方々の参加をお待ちしております!

写真は昨年のエイドステーション設置訓練のひとコマ

### 2008年首都圏統一帰宅困難者対応訓練

日時：2008年9月23日(祝)

場所：スタート地点 日比谷公園

ゴール地点

千葉コース 千葉県浦安市

埼玉コース 埼玉県和光市

東京コース 東京都調布市

神奈川コース 神奈川県川崎市

参加申込方法

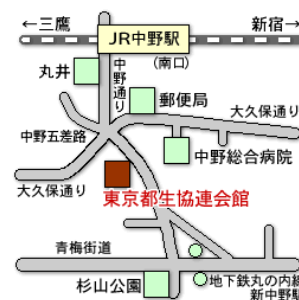
：同封のチラシ裏に必要事項を明記の上、FAXで申し込むか、東京災害ボランティアネットワークホームページからWEB申込をしてください

### 東京災害ボランティアネットワーク事務局

〒164-0011 中野区中央 5-41-18 東京都生協連会館 3階

tel:03-3380-1614 fax:03-3380-1615

E-mail:office@tosaibo.net



# 2008年首都圏統一帰宅困難者対応訓練参加団体の取り組みについて

## 「2008年首都圏統一帰宅困難者対応訓練」における ボランティア・市民活動センターの取り組み

東京ボランティア・市民活動センターでは、日頃から東京における大規模災害発生を想定した訓練・研修等を、各行政・関係団体等と連携を取りながら行っております。

東京都内・日比谷公園から千葉県・埼玉県・神奈川県・東京西部の4方向同時に開催されるこの度の訓練においては、特に避難経路沿道地域の各地区ボランティア・市民活動センターと共に、近い将来に起こりうると思われる大災害時を想定し、各地区の実情に合わせ訓練に参画していきたいと考えています。

災害時、被災地もしくは近隣ボランティア・市民活動センターは災害ボランティアセンターを立ち上げ、地域の被災復興に向け、市民活動の視点から携わることが期待されています。特に都心のボランティア・市民活動センターでは、在勤・在学または来訪の方々の帰宅問題と在住の方々の支援問題など多面的な対応が想定されます。そのような時、如何に被災に立ち向かっていくのか。拠り所となるのは“市民の力”であることは、過去の例を挙げるまでもありません。

ボランティア・市民活動センターは、地域住民はもとより、多彩な社会資源のネットワークこそが財産と言えます。この度の訓練は、そのネットワークをさらに強化できる絶好の機会であると考え、多くの“市民”の方々のご協力を仰ぎながら、訓練に取り組んでいきたいと思っております。

(東京ボランティア・市民活動センター 近江)



東京ボランティア・市民活動センターは、昨年、都内社協・ボランティアセンターへの声かけをすると同時に、飯田橋でエイドステーションも設置した

## 帰宅困難者対応訓練への取り組み

わたしたちNPO法人ふるさとの会は、帰宅困難者訓練への参加は今年で5年目となります。千葉コースのエイドステーション（以下AS）運営を主に担当させていただくことになると思います。

昨年は横網町公園AS運営を担当致しました。主なスタッフは支援対象者である元ホームレスの人たちです。徒歩訓練参加者の方々の励ましたり、飲み物を用意する等のちょっとしたきっかけで、支援される側から支援する側に回り、非常に前向きな気持ちになり、さらに自分に自信を深めているのが彼らの表情や目の輝きにはっきりと表れていました。

昨年の反省としては、道に迷いコースを外れた方が若干出ており、誘導をポイントごとでしっかり行う点を強く認識し今年の訓練に生かしたいと考えております。

現在わたしたちは、6月14日に自動車でのコース実走に参加し、これからAS運営の人員等の募集に取り掛かっています。そして7月16日にはコース別の実行委員会も始まりました。今年は日程が昨年より約2ヶ月早く、急いで準備を進めなければなりません。今年はルートが昨年とは大幅に変更となり、他団体との連携という面においても少し異なる関わり方になると思いますが、昨年の経験を生かした上でかつ今年の事情にうまく対応し、自分たちの役割をしっかりと果たしてゆきたいと思っております。

千葉コースのゴール地点の浦安市が積極的に参加されるということもあり、社会に対しての防災の意識を高める強いアピールとなるこの訓練が、より充実したものとなるよう助力できたらと考えております。

(NPO法人ふるさとの会 新行内)



昨年の訓練では千葉コースの横網公園(墨田区)のエイドステーションを担当していただいたふるさとの会。運営を担うのは元ホームレスの方々

## コラム＜TOSAIBO TIMES 編集長ハイバラのお言葉＞

「存在の耐えられない軽さ」

もちろん、ミラン・クンデラの作品のタイトルである。

このところ連日のように起きる悲惨な事件の報道で、私はこの本を再読しようと書棚を探したが消えていた。あたかも家族に、友人に、そして社会に自分の存在を認めさせるために、彼ら、彼女らは家族を殺し見知らぬ人を無差別に殺傷する。クンデラは存在の重さと軽さを被虐的に逆転して見せるのだが、彼ら彼女らは人間として自己の存在の耐えられない無意味さに耐え切れずに刃物を握る。今の日本はこのようにずさんで孤独に生きることを強い、そして人を簡単に破綻させてしまうのか。突然、命を奪われる「普通の人々」。もしそのような人が隣を歩いていたら声をかけてあげよう。「存在の軽さは、むしろ自由の証である」と。どうか、その苦悩のために人の命を奪わないでください。(ハイバラ)

2008年7月5日(土)



## 第6回総会が開催されました ～ひとりの力を大きな力に～



総会開催にあたり、小澤代表幹事、伊野瀬東京都生協連専務理事の挨拶、東京災害ボランティアネットワーク上原事務局長、連合東京ボランティアサポートチームの真島さんよりご挨拶をいただきました。



### ～全議案が可決承認されました～

総会には 41 名の会員が出席、78 人の委任状が議長に寄せられ、第 1 号議案「2007 年度活動報告承認の件」、第 2 号議案「2008 年度活動方針承認の件」が提案され、いずれも全会一致で承認されました。また、第 3 号議案「2008 年度幹事選出の件」については 7 名の幹事が選出されました。

2008 年度、コープ災害ボランティアネットワークは 256 名の会員、ひとりひとりの力を最大限に発揮できる組織作りをめざします。

### 総会記念講演 ～共に生き、共に学ぶ～ 「私たちは向き合います。苦難の中にいる人々と世界に。」



総会終了後、シャンティ国際ボランティア会の関 尚士事務局長をお招きし、「私たちは向き合います。苦難の中にいる人々と世界に。」と題して記念講演を行いました。

1980 年にカンボジア難民キャンプの子どもたちに絵本を贈ることから活動を始めたシャンティ国際ボランティア会が活動を進める上で大切にしていること、そしてミャンマーサイクロンの支援の様子などお話いただきました。

日本生協連中央地連主催

## 首都直下地震対応図上演習に参加



2008 年 6 月 21 日(土)、中央地連大規模災害対策協議会が主催した「首都直下地震対応図上演習」に参加しました。

この訓練は、東京湾北部を震源とする M7.3 の地震により首都圏が被災した想定で、①災害対策本部の設置及び運営、②発災初期の応急対応活動、③事業継続・再開のための対応活動、④自治体と協定している応急生活物資供給対応、⑤首都圏が被災した場合の広域応援のあり方について問題点・課題を抽出しました。

この図上演習により、①職員への安否確認方法、③負傷や帰宅希望職員への時系列的対応、③組合員の被災状況の把握と対応、④東災ボとの連携等の検討課題が明確になりました。

## ～三宅島とニューオーリンズをつなぐ～ 日米交流事業中間のご報告

2007年9月上旬、東災ボは初めての海外研修事業として、米国ニューオーリンズ市の被災地訪問と被災者支援をおこなう関係市民団体・機関との交流事業を実施しました。

すでに被災地復興課題を研究テーマに幾度となく現地を訪問している東災ボ副代表の青山やすし氏にご協力をいただき、10日間の日程で16名の参加者がニューオーリンズ、およびニューヨークを訪問しました。この旅の様子は現地から毎日配信された「アメリカ発！市民の中に吹く風」でご記憶の方も多いかと思えます。

その旅の途中、ジャパンソサエティの皆様のご紹介でフォード財団の方々にお会いしました。その際、日米両国の災害対応の経験と復興課題をテーマに交流とシンポジウムの開催と日米両国での報告書発行を主とするプログラム推進と財政支援の提案を受け、交流団は協議の後、青山氏を責任者とする日米交流プロジェクトの推進を基本合意いたしました。

この合意を受け、帰国後、プロジェクト会議が開催され、4月下旬に6日間の日程で13名がニューオーリンズを訪問しました。被災地の農業・漁業の活性化、文化芸術を通じての被災者支援、被災地での教育制度へのチャレンジ、ホームレス支援や地域開発を含めた住宅復興など、多様な被災地での課題に対し、現場訪問と共に、ソフト・ハード両面からの意見交換が、連日おこなわれました。この中では公的部門と民間・市民事業部門の果たす役割についても論議がなされました。

今回の訪問団は青山氏をリーダーとし、三宅島の平野村長、三宅島島民である「みやげじまく風の家」の坂上氏、東京都生協連の伊野瀬氏、佐藤氏、生原氏、東京YMCAの山根氏、ホームレス支援をテーマに携わる成清氏、東災ボの事務局からは上原と福田氏が、明治大学危機管理研究センターの佐々木氏、吉田氏、企業の社会貢献・CSRを研究している雨宮氏、そして日米間の調整にご努力いただいたジャパンソサエティの川島さん、ベティさんというメンバー。一緒に準備を進めてきた連合東京の遠藤氏の直前の公務による不参加は残念ではありましたが、多様な方々による訪問団となり、実のある交流事業がスタートしています。

今秋の9月には、米国の代表団の皆さん14名の来日が予定されています。

来日は9月8日から12日まで。この中で、日米代表団による意見交換会、公開シンポジウム、関係機関・施設の訪問、団体交流、さらに有志による三宅島訪問と様々なプログラムが予定されています。

米国代表団の来日中には東災ボ参加団体の皆さんの方々にも、その受け入れ、交流の場の設定などのご協力をいただきたいと思います。特に、9月12日午後2時より明治大学において開催されるシンポジウムに関しては、多くの方々のご参加をお待ちしております。

このプログラムの詳細については、次号のニュース等でお知らせさせていただきます。ご注目、お願いいたします。(上原)

ジャパンソサエティ  
フォード財団

<http://www.japansociety.org/>  
<http://www.fordfound.org/>



2008年4～5月の訪米については、東京新聞でも数回にわたり報道されました。(2008.05.02 東京新聞夕刊)

### 東京災害ボランティアネットワークとは？

1995年の阪神・淡路大震災を契機に、1998年1月に設立されたボランティアネットワーク。災害救援活動や防災・減災活動、ボランティア団体やNPO団体に限らず、様々な形で様々な課題に向かって活動している団体が、災害前に「顔の見える関係」を構築していくことを目的としている。構成されている団体は、ボランティア団体・NPO団体をはじめ、労働団体、消費者団体、社会福祉団体、海外支援NGO、企業と多岐にわたる。

これまで1998年福島豪雨災害や2000年三宅島噴火災害、2004年新潟水害、新潟県中越地震、2005年三宅島島民支援など、様々な被災地で被災地支援活動・被災者支援活動を展開。

また、各被災地で気づかされたことを東京での防災・減災活動に生かし、都道府県行政、市区町村行政、社会福祉協議会、企業、そして地域の学校・町会などの地域団体と共に、災害といのちと暮らしを想像して、考えて、実践していく小さな「気づき」の取り組みを実施している。

2008年7月現在80の団体が参加。

### 編集後記

昨年退職し、しばしの休養を楽しんだところに、東京災害ボランティアネットワーク事務局からお声を掛けていただき、週1回、事務所にお邪魔させていただくようになって、早や4か月。連合東京VSCを通して、お世話になっていた東京災害ボランティアネットワークに、私にも何かお手伝いできることがあるのかしらんと思いつつ。いやいや、手探りどころか、私には難しい話ばかりが耳に入ってくるばかり。それでも、上原さん、福田さんの優しいお人柄に、事務局の雰囲気には慣れてきた今日この頃です。

今、東京災害ボランティアネットワークは9月23日の首都圏統一帰宅困難者対応訓練に向けて、実行委員会を中心に、行政・協力団体へのお願いや調整に奔走、着々と準備が進められています。昨年より2ヶ月早い時期の訓練は、日没時間はクリアされますが、気温が気になります。また、今年は障害者の方も参加されるということで、例年にも増して、身近な課題を意識する訓練になりそうです。(I・A)